

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	59人	社会	60人	数学	60人
	理科	61人	英語	61人		

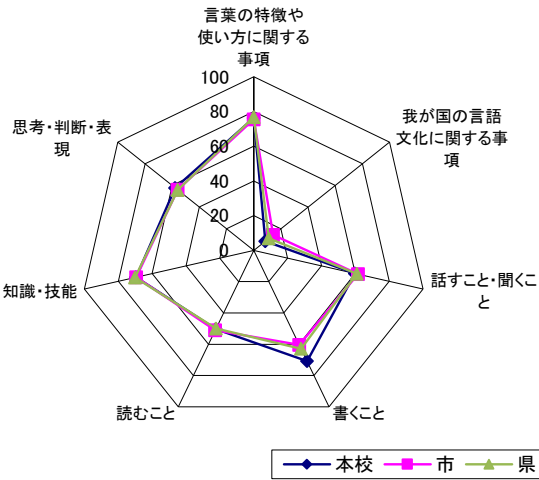
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.3	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	8.5	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	59.8	61.6	60.9
	書くこと	70.8	60.4	62.9
	読むこと	50.4	51.0	49.9
観点	知識・技能	69.5	69.4	70.1
	思考・判断・表現	57.8	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

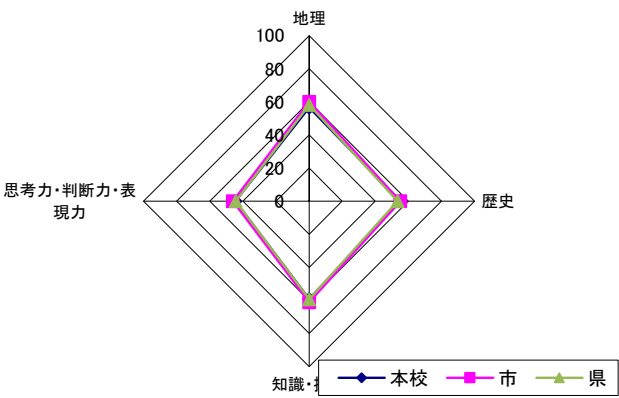
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字を読む問題の正答率は、すべて100.0%であり、県の平均を0.8ポイント上回っている。 ●文を単語に分けて抜き出す問題の正答率は、62.7%であり、県の平均を13.3ポイント下回っている。文法事項を理解することに課題が見られる。	・引き続き漢字のテストや、語句の使い方をテストする語句テストを定期的実施することで、定着を深める。 ・文法は、1年生の基礎的な部分からの復習を授業の中で何度か実施していくことで定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率は8.5%であり、県の平均を2.7ポイント下回っている。歴史的仮名遣いを理解することに課題が見られる。	・古典の授業において、歴史的仮名遣いをしっかりと学ばせ、知識として定着を図る。 ・古典の分野において生徒の興味・関心を高めていく授業を実践していく。
話すこと・聞くこと	○話し手の話し方として適するものを選ぶ問題の正答率は57.6%であり、県の平均を1.4ポイント上回っている。自分の考えや根拠が明確になるような話の構成を考えることに良好な状況が見られる。 ●司会者の話し合いの進め方の工夫として適するものを選ぶ問題の正答率は72.9%であり、県の平均を1.5ポイント下回っている。	・聞き取りテストの継続的な実施はもとより、スピーチ発表や、グループ学習の機会を増やしていきたい。 ・話し合いの授業の中で、司会者の工夫を評価する指導を行うことで、生徒に自信を持たせ、話し合いの進め方を学ばせたい。
書くこと	○観光客を呼ぶためのAとBのポスターについて文章を書く問題の正答率は78.0%であり、県の平均を9.3ポイント上回っている。指定された長さで文章を書くことに良好な状況が見られる。 ●無解答率は11.9%であった。	・「短文を書く」指導は、地域学校園での重点目標になっていて、継続的に行われていることもあり、特に力を入れて指導している単元である。引き続きこれらを指導していくことで、「書く」能力を育成したい。
読むこと	○文章のまとまりとして適するものを選ぶ問題の正答率は64.4%であり、県の平均を6.9ポイント上回っている。文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに良好な状況が見られる。 ●文章の内容を説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く問題の正答率は10.2%であり、県の平均を2.6ポイント下回っている。文章の内容について文章の叙述を基に捉えることに課題が見られる。	・説明的文章は授業の中で、取り組み方を伝える時間を確保し、解説をしているため、その成果がわずかであるが表れてきていると考えられる。引き続き実践していきたい。 ・物語文では、心情の読み取りや心情の変化など、クロームブックを用いて他者との意見交換など行っていく。授業の中の対話的な発問を繰り返していくことで生徒一人一人の深い読みを実現していく。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	56.6	60.1	58.1
	歴史	55.1	55.1	53.5
観点	知識・技能	59.2	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	44.5	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

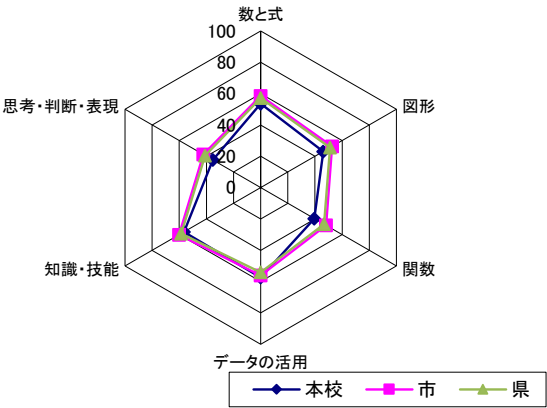
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○示された地図の特徴について理解しているかどうかをみる問題では、正答率83.3%で県の平均を18.2ポイント上回った。 ○時差を理解しているかどうかをみる問題では、正答率61.7%で県の平均を8.4ポイント上回った。 ●排他的経済水域の範囲や権限について理解しているかどうかをみる問題では、正答率41.7%で県の平均を21.2ポイント下回った。 ●ヒンドゥー教の特徴と分布について理解しているかどうかをみる問題では、正答率33.3%で県の平均を15.8ポイント下回った。	・資料の読み取りについては、授業で取り組む際に、世界各地や日本各地の特徴と関連付けながら読み取れるよう指導するとともに、既習内容に触れたり、読み取る際に着目する点を意識付けたりする。 ・1つの資料から読み取ることは、十分できていると考えられるが、複数の資料を比較したり、いくつかの情報を読み取ったりする力を身に付けられるよう指導する。
歴史	○聖徳太子が目指した政治のあり方について理解しているかどうかをみる問題では、正答率85.0%で県の平均を7.2ポイント上回った。 ○応仁の乱の歴史的影響について理解しているかどうかをみる問題では、正答率60.0%で県の平均を9.8ポイント上回った。 ●旧石器時代の人々の生活の特色について理解しているかどうかをみる問題では、正答率61.7%で県の平均を9.2ポイント下回った。 ●藤原頼通が建てた建築物について理解しているかどうかをみる問題では、正答率53.3%で県の平均を2.6ポイント下回った。	・それぞれの時代の文化や政治など、その時代の特色を捉えられるようなまとめの活動を充実させるとともに、それぞれの時代で活躍した人物や関わりの深い建物など、学んだことを結び付けたり、比較したりする活動を通して指導する。 ・まとめは、思考ツール活用と視覚的に分かりやすくなるよう工夫する。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	53.6	58.6	57.2
	図形	46.1	52.6	51.1
	関数	39.5	48.2	46.8
	データの活用	57.4	56.1	54.1
観点	知識・技能	56.5	60.2	58.6
	思考・判断・表現	35.2	42.3	40.9



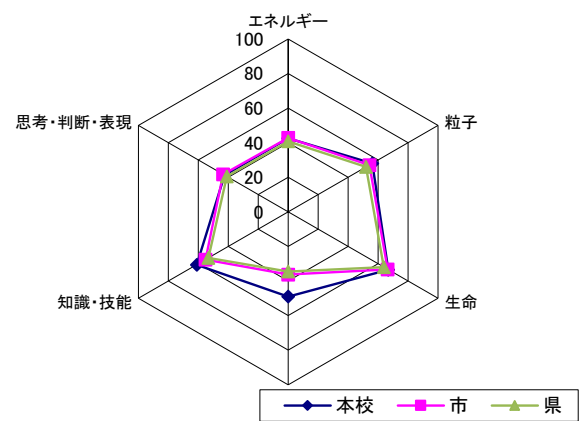
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○「素因数分解をする。」問題の正答率が75.0%であり、県平均を3.6ポイント上回っている。 ●数と式の領域では、正答率が53.6%で、県平均を3.6ポイント下回っている。特に、「1次式の減法を計算する。」問題の正答率が43.3%で、県平均を11.9ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・1次式の計算や方程式の反復練習を行い、計算力を高める。 ・文章題に対して、適切な方程式を立式する力を高めるために、習熟度学習を取り入れる。
図形	○「ねじれの位置関係にあるものを選ぶ。」問題の正答率が78.3%であり、県平均を7.4ポイント上回っている。 ●図形の領域では、正答率が46.1%で、県平均を5.0ポイント下回っている。特に、「円柱の側面積を求める式」の問題の正答率が23.3%で、県平均を22.5ポイント下回っており、「正四角柱と正四角錐の体積の関係」の問題の正答率が53.3%で、県平均を13.3ポイント下回っている。	・空間図形に苦手意識があるようなので、それぞれの立体の体積や表面積を求める問題に慣れるために、適宜、復習する場面を設け、3年次の学習につなげる。 ・関数のグラフの学習においても、回転体を取り入れ、空間図形に触れる場面を増やし苦手意識をなくしていけるようにする。
関数	○「yがxの関数であるものを選ぶ。」問題の正答率が61.7%であり、県平均の61.9%とほぼ同じである。 ●関数の領域では、正答率が39.5%で、県平均を7.3ポイント下回っている。特に、「反比例の式を選ぶ」問題の正答率が38.3%で、県平均を15.7ポイント下回っており、「表をもとにx、yの値を求める。」問題の正答率が15.0%で、県平均を12.9ポイント下回っている。	・関数の基本である表・式・グラフを関連させて考えられるように指導する。 ・1次関数の単元では、比例や反比例の復習を加えながら行うことで、それぞれの関数の特徴を把握できるようにする。 ・グラフの利用の学習では、求め方を説明させたりするなど、対話的な学びができるような場面を設ける。
データの活用	○データの活用の領域では、正答率が57.4%で、県平均を3.3ポイント上回っている。「2つの度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明する」問題の正答率が56.7%であり、県平均を12.1ポイント上回っている。 ●「結論の出すために必要なデータを選ぶ」問題の正答率が45.0%で、県平均を4.8ポイント下回っている。	・データの特徴を知るために、累積度数や相対度数、最頻値、平均値などを活用することの意味を感じられるようにするため、日常生活の場面を多く取り入れるようにする。 ・ヒストグラムや度数分布表、2年次に学習する箱ひげ図等からデータの特徴を読み取れるようにする。 ・データを効果的に収集したり、まとめたりする際に、ICTの活用を図る。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	42.6	42.8	40.8
	粒子	56.2	54.2	52.0
	生命	66.8	66.4	63.8
	地球	49.0	36.2	34.5
観点	知識・技能	61.1	55.2	53.3
	思考・判断・表現	42.5	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

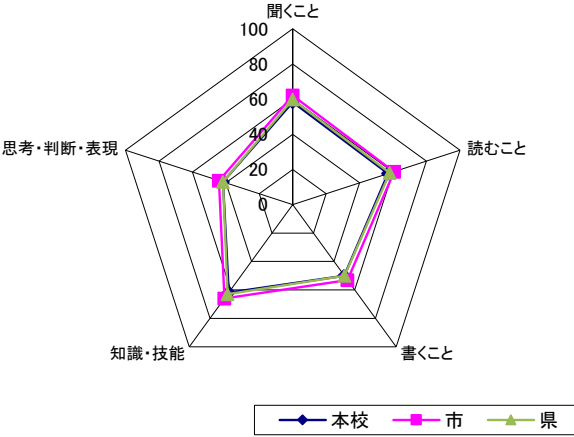
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○エネルギーの領域では、県の平均を1.8ポイント上回った。特に光の道すじを作図する問題は県の平均を5.9ポイント上回っている。授業内で作図する活動を繰り返し行い、定着を図った成果であると考えられる。 ●2つのばねの長さが等しくなる時のばねに加えた力を求める問題の正答率は16.4%であり、県の平均を2.2ポイント下回った。計算問題に課題があると考えられる。	・引き続き作図のきまりや書き方を丁寧に学習し、内容の定着を図る。 ・ばねののびの計算など数的な関係に苦手意識がある生徒がいるので、計算力をつけさせる指導を行う。
粒子	○粒子の領域では、県の平均を4.2ポイント上回った。特に二酸化炭素を発生させる操作を選ぶ問題では県の平均を18.9ポイント上回っている。実験方法を丁寧に指導した成果であると考えられる。 ●記述式の問題の正答率が低く、県平均を下回っている。自分の言葉で説明する設問の正答率が低い傾向が見られる。	・今後も基礎的な内容を重視した指導を継続することで定着を促す。 ・実験の考察やまとめを丁寧にを行い、自分の言葉で現象を説明する機会を設定する。
生命	○生命の領域では、県の平均を3.0ポイント上回った。特に誤ったまとめを正しく書き直す問題の正答率は県の平均を13.3ポイント上回っている。実験の考察を丁寧にを行うことで、内容が定着したと考えられる。 ●昆虫類ではない動物を選ぶ問題の正答率は52.5%であり、県の平均を16.4ポイント下回った。知識を活用して答える問題に課題が見られる。	・今後も基礎的な内容を重視した指導を継続することで定着を深めていきたい。 ・実験の結果を予想したり、仮説を立てたりする活動を通して、既習事項を活用して考える活動を充実させる。
地球	○地球の領域では、県の平均を14.5ポイント上回った。特に無色鉱物の名称と無色鉱物を多く含む深成岩の名称を選ぶ問題は正答率が71.2%であり、県の平均を31.2ポイント上回った。基本的な知識・技能が定着していると考えられる。 ●震源からの距離を選び選んだ理由を答える問題の正答率は0.0%であり、県の平均を7.0ポイント下回った。記述式の問題の正答率が低く、課題が見られる。	・今後も基礎的な内容を重視した指導を継続する。 ・記述形式で適切に理由を答える力が不足している部分があると考えられるので、文章で答える場面を授業やテストで増やすなど文章力を付ける指導を検討する。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	58.3	62.0	59.7
	読むこと	57.0	60.6	58.0
	書くこと	50.0	53.1	50.1
観点	知識・技能	61.9	66.0	63.0
	思考・判断・表現	41.7	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○「英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に伝える。」という設問では、正答率が19.7ポイントであり、県平均と比べて0.8ポイント上回っている。 ●「対話の内容を聞き取り、適切に応答しているものを選ぶ。」という設問では、正答率が37.7ポイントであり、県平均と比べて8.8ポイント下回っている。	・日頃の授業で、スモールトークを積極的に行い多様な表現に触れながら、多くの英文を聞く機会を設ける。 ・教師とのインタラクションを通して、対話への適切な応答や、話の概要を捉えるような話題を用意し、継続的に指導をする。
読むこと	○「英文を選んで概要を理解し、英文にふさわしいタイトルを選ぶ。」という設問では、正答率が62.3ポイントであり、県平均と比べて2.6ポイント上回っている。 ●「英文から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選ぶ。」という設問では、正答率が37.7ポイントであり、県平均と比べて11.7ポイント下回っている。	・教科書の内容をじっくりと読み、内容を理解しようと努めている成果が表れていると考えられる。今後も継続的に指示語の意味や本文の内容を問う指導を行う。 ・本文の内容を理解する際に、音読指導を徹底し、文字と音を結び付けながら、読む力を養う指導を行う。
書くこと	○「語法・語形を理解することができる(一般動詞の過去形)。｣という設問では、正答率が73.8ポイントであり、県平均と比べて7.5ポイント上回っている。 ●「対話の流れに合った英文を書く。」という設問では、正答率が19.7ポイントであり、県平均と比べて8.7ポイント下回っている。	・語法・語形を問う問題は比較的正答率が高く、家庭学習で基本的な問題を繰り返し解くことで、力がついてきているのだと考えられる。引き続き、基本的な事項の理解を重視するように指導を行う。 ・単語テストを定期的に行い、まとまった英文を書くために必要な語彙力を身に付けさせる。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●家庭での学習についての質問では、「自分で計画を立てて学習している」の肯定的回答が60.7%で、県の平均を3.1ポイント下回っている。「学校の宿題をしている」の肯定的回答が98.3%で県の平均を5.4ポイント上回っていることから、生徒が自分自身の学力向上につながる学習課題を見つけることに課題が見られる。

○平日の学習時間に対する質問では、「2時間以上3時間より少ない」の回答が34.4%であり、県の平均を12.3ポイント上回っている。家庭学習の時間については良好な状況が見られる。今後は3学年への進級に向け、少しずつ学習時間を増やし、生徒の自ら学ぶ態度を養いたい。

●「ふだん1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームをしますか」という質問では、3時間以上4時間より少ないと回答した割合が14.8%と県平均よりも3.2ポイント上回っている。他にも1日当たりのテレビやDVD、動画の視聴においても視聴時間の平均が県の平均より若干長い傾向にある生徒の割合が多く見られる。スマホやゲームの利用に課題が見られる。家庭学習とのバランスや時間を決めての利用など、生活の点検や改善の取り組みを図る。

●授業での様子に関する質問では、「グループでの話し合い活動に自分から進んで参加している」の肯定的回答が、77.0%で県の平均を4.0ポイント下回っている。発言が一部の生徒に偏っていないかなど、話し合いの状況を注意深く観察して、話し合い活動等がより充実したものになるよう指導していきたい。

●「自分の考えを発表する機会が与えられている」では78.7%で県の平均を8.9ポイント下回っている。多くの生徒に発表の機会を設け、自信や意欲の向上につなげていくことを指導上の課題としていきたい。

●「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」という質問では、はい・どちらかというとはいと答えた割合が、44.3%と県平均を25.1ポイント下回っている。相談しやすい人間関係をつくるとともに、わからない所は、どんどん質問するように促す。

○「授業のめあてが示されているか」の質問では、肯定的回答率は98.4%で県の平均を0.2ポイント上回っている。生徒は授業のねらいや学習課題をよく理解して授業に臨んでいる。今後も授業での身に付けたい能力などについて、一人一人の生徒のできた・わかったの実感が高まるように指導していく。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の回答も44.3%で県の平均より1.1ポイント上回っている。本学年の生徒は、穏やかで優しい生徒が多く、生徒個々の発言が周囲から認められている。対話的な学習の良さを生徒一人一人が生かして、自分の学力向上に発展させていくことができるように指導していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業	主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の実施に向け、思考力を深めるために、各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。	「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は82.0%で、県の割合と比べて7.4ポイント高い。 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は75.4%と昨年度より1.2ポイント上回った。国語の「書くこと」は県の平均を7.9ポイント上回ったが、英語の「書くこと」は0.1ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的・基本的内容の定着がされていない。	基礎的・基本的内容の定着を図る。AIドリルや振り返り活動の充実を図る。	・各教科で確実に定着させる内容ではドリル学習(AIドリル等)を根気強く行う。 ・達成目標を小さく設定し、確実に達成できるようにする。 ・家庭学習の習慣化及び質の向上を図らせる。